

林いさお通信



Tel259-2228

討議資料 No. 13 政務調査活動報告 平成20年4月 林いさお後援会

小布施町

政務調査報告

2月6日、7日と3会派（大空、ネットワーク三芳、ウイング）合同で政務調査を実施し、長野県小布施町を訪れました。



栗の小径（栗の木を路面に使用）

小布施町は長野県北部に位置し、長野市、須坂市、中野市などに囲まれる。

人口は12,000人、面積は19.07平方キロメートルで町役場を中心にして半径2キロメートルの円を描けば、ほとんどの住居が入ってしまうほどの小さい町です。

600年の歴史を持つ小布施栗と葛飾北斎の肉筆画を展示する北斎館、北斎筆の大天井画がある岩松院など「栗と北斎と花の町」として現在では全国的に知られ、年間120万人余りの観光客が訪れている。

今回の視察にあたって個人的には2つのテーマを持っていました。

一点が、小布施町における6次産業。

小布施は、基幹産業が農業であり、その農業を製造業（農産物加工）、サービス業（販売、飲食）へと結びつける6次産業を展開、三芳町の農業に活かすことはできないだろうかということ。

二点目が、町並修景事業。小布施町は、栗菓子の老舗や大壁造りの民家など歴史的な景観を修景し成功しています。

三富地割り遺跡とケヤキ並木など、まだまだ武蔵野の面影が残っている三芳町の景観を考える上で参考にならないだろうかということです。